

諏訪 葵

Aoi Suwa

Portfolio

2011-2020



# 諏訪葵

Aoi Suwa

1991 東京生まれ

## 学歴

- 2014 武蔵野美術大学 油絵学科油絵専攻 中退
- 2018 東京藝術大学 美術学部 絵画科油画専攻 卒業
- 2018 東京藝術大学 大学院 美術研究科 油画第五研究室 修士課程 入学
- 2019 ロンドン芸術大学 Central Saint Martins MA Art & Science 交換留学
- 2021 東京藝術大学 大学院 美術研究科 油画第五研究室 修士課程 修了見込み

## 賞歴／助成・奨学金

- 2015 コニカミノルタソーシャルデザインアワード アート部門入選
- 2016 石橋財団国際交流油画奨学生 短期派遣
- 2017 「2074、夢の世界」アワード 入選
- 2017 第12回 藝大アートプラザ大賞 入選
- 2018 O氏記念賞
- 2018 JIDF学生文化デザイン賞 2018 入賞
- 2019 NONIO ART WAVE AWARD 2019 準グランプリ受賞
- 2019 官民民協働海外留学支援制度トビタテ!留学JAPAN 多様性人材コース第10期
- 2019 東京藝術大学「I LOVE YOU」プロジェクト 企画採択
- 2020 ゲンビどこでも企画×ゲンビ「広島ブランド」デザイン スペシャル公募2020 入選
- 2020 オンライングローバルアートイベント「Be-coming Tree」企画採択
- 2021 ギオン芸術スポーツ振興奨学金 2020年度奨学生

## 個展／個人企画

- 2020 「映り」としての圧縮／群馬県桐生市 山治織物工場にてオンライン公開
- 2021 「Entropic Circulation 揺れのある循環」／北千住BUoY

## グループ展

- 2011 「源展」／吉祥寺ギャラリー悠
- 2011 「源展II」／武蔵野美術大学 芸術祭展示
- 2011 「ARTIST IN DANCHI」／りえんと多摩平
- 2012 「僕らは生かされている」／武蔵野美術大学 芸術祭展示
- 2012 「進級制作展」／武蔵野美術大学
- 2013 Recover & Rebuild Japanese art & Design  
第1回東日本大震災チャリティ展「Monster展」／渋谷ヒカリエ8
- 2013 「分解の座標」／武蔵野美術大学 芸術祭展示
- 2014 油画一年生展「ユガイチクエスト」／東京藝術大学 芸術祭展示 上野校地

- 2014 「取手アートパス2014」／東京藝術大学 取手校地
- 2015 コニカミノルタソーシャルデザインアワード 入選作品展示／新宿 コニカミノルタプラザ
- 2015 油画二年生展「～遊～」／東京藝術大学 芸術祭展示 上野校地
- 2016 「進級制作展」／東京藝術大学 上野校地
- 2016 平成28年度石橋財団国際交流油画奨学生 成果報告展vo.1
- 2017 「無二無二」／アーツ千代田3331
- 2017 「2074、夢の世界」展／東京藝術大学 大学美術館B2F
- 2017 油画四年生展／東京藝術大学 芸術祭展示 上野校地
- 2017 「石橋財団・東京藝大油画-海外派遣奨学生展」／東京藝術大学 陳列館
- 2018 油画四年生学内展「BE MY BABY」／東京藝術大学 上野校地
- 2018 第66回卒業修了作品展／東京藝術大学 上野校地・東京都美術館
- 2018 「near Phenomena」／西荻窪 中央本線画廊
- 2018 「0」／東京藝術大学 上野校地
- 2018 Life is Art展／長野県東御市 旧稚蚕飼育所 地下コンクリートスペース
- 2018 「対話する」／東京藝術大学 上野校地 学生会館2F
- 2019 「流れる瞬間、うつろう場所 Place out of Time」 瀬戸内国際芸術祭2019 秋期  
東京藝術大学×シカゴ美術館附属美術大学 グローバルアート共同プロジェクト
- 2019 「Emergent」 CSM MA Art & Science Open Studio／Elthorne Studios, London, UK
- 2020 「i promise you...」 CSM MA Interim Show／Apiary Studios, London, UK
- 2021 第69回卒業修了作品展／東京藝術大学 上野校地
- 2021 ゲンビどこでも企画×ゲンビ「広島ブランド」デザイン スペシャル公募2020／旧日本銀行 広島支店

#### ワークショップ・イベント

- 2011 第三回東京国際科学フェスティバル／グラフィック作品展示にて参加／有明 パナソニックセンター東京
- 2012 第四回東京国際科学フェスティバル／ワークショップ企画にて参加
- 2012 ワークショップイベント「コズミック・ワークショップ」企画・運営／千住芸術村
- 2013 ワークショップイベント「手のひらに宇宙を乗せてみよう」企画・運営／さわやかちば県民プラザ
- 2013 平成25年度 文部科学省 グローバル人材育成推進事業 東日本第2ブロックイベント  
「世界を変えるアイディア」英語・映像・アクションペインティングによるプレゼンテーション発表  
武蔵野美術大学代表チームとして出場／お茶の水大学
- 2013 ワークショップイベント「みんなのせかいをかこう!」企画・運営・発表／ふじようちえん
- 2015 ワークショップイベント「おどれアンドロメダ」企画・運営／千住芸術村
- 2015 ワークショップイベント「ふむとポンポンお父さん」企画・運営／千住芸術村
- 2020 「3D Chemical Drawing Workshop」／Oxford University Art Club

#### 滞在制作

- 2011 「ARTIST IN DANCHI」／団地を改築したシェアハウス りえんと多摩平／八王子
- 2016 Gullkistan／Laugarvatn, Iceland アイスランド、ロイガルバトン
- 2019 Cerdeira／Lousã, Portugal ポルトガル、ロウザン
- 2020 Järvilinna Art Center／Jyväskylä, Finland ユヴァスキュラ、フィンランド
- 2020 山治織物工場／群馬県桐生市

# Aoi Suwa

1991 Born in Tokyo.

## Education

2018-2021 Master of Fine Arts  
The Graduate School of Fine Arts,  
Tokyo University of the Arts, Japan

2019-2020 Exchange Program  
MA Art and Science,  
Central Saint Martins,  
University of the Arts London, UK

2014-2018 Bachelor of Fine Arts  
Oil Painting Major, Department of Painting  
Tokyo University of the Arts, Japan

2011-2014 Bachelor of Fine Arts  
Oil Painting Major, Department of Oil Painting  
Musashino Art University, Japan

## Award/Scholarship

2021 Scholarship for art and sports students by Gion Co., Ltd.  
2020 Online Global Art Event "Be-coming Tree" selected  
2020 Doko×Deza Competition by Hiroshima City Museum of Contemporary Art selected  
2019 TOKYO GEIDAI "I LOVE YOU" Project selected  
2019 TOBITATE! Young Ambassador Program, Study Abroad Scholarship  
2019 Semi Grand Prix, NONIO ART WAVE AWARD 2019  
2018 INTER DESIGN FORUM TOKYO 2018 VOL.9 selected  
2018 Mr. O commemoration prize, Tokyo University of the Arts  
2017 The 12th Geidai Art Plaza selected  
2017 Rêver 2074 Award selected  
2016 Scholarship for oil painting students by Ishibashi Foundation  
2015 KONICA MINOLTA Social Design Award, Art Division

## Solo Exhibitions

2021 *Entropic Circulation*, Art Space BUoY, Kita-senju, Japan  
2020 *Reflection as Compression*, Yamaji Textile Factory, Gunma prefecture, Japan



## Group Exhibitions

- 2021 *Doko×Deza Competition by Hiroshima City Museum of Contemporary Art*, Hiroshima, Japan
- 2021 *Tokyo University of the Arts The 69th Graduation Works , Exhibitions*,  
Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2020 *i promise you...*, CSM MA Interim Show / Apiary Studios, London, UK
- 2019 *Emergent*, CSM MA Art & Science Open Studio / Elthorne Studios, London, UK
- 2019 *Place out of Time/ Setouchi Triennial*, Kagawa, Japan
- 2018 *Taiwa-suru*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2018 *Life is Art*, Factory basement, Tomi, Nagano, Japan
- 2018 *0*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2018 *Mujyo*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2018 *near Phenomena*, Chuo honsen Gallery, Nishi ogikubo, Tokyo, Japan
- 2018 *Tokyo University of the Arts The 66th Graduation Works , Exhibitions*,  
Tokyo Metropolitan Art Museum, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2018 *BE MY BABY*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2017 *Traveling Scholarship Program Exhibition*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2017 *4th grade students exhibition*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2017 *Rêver 2074*, The University Art Museum, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2017 *Muni-Muni*, 3331 Arts Chiyoda, Tokyo, Japan
- 2016 *Report Exhibition by Ishibashi Foundation Scholarship oil painting students*,  
Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2016 *Promotion Exhibition*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2015 *Yuu*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2015 *KONICA MINOLTA Social Design Award*, KONICA MINOLTA PLAZA, Shinjuku, Japan
- 2014 *Toride Art Path*, Tokyo University of the Arts, Toride, Japan
- 2014 *Yugaichi Quest*, Tokyo University of the Arts, Ueno, Japan
- 2013 *Bunkai no Zahyo*, Musashino Art University, Kodaira, Japan
- 2013 *Monster Exhibition*, Shibuya Hikarie, Japan
- 2012 *Promotion Exhibition*, Musashino Art University, Kodaira, Japan
- 2012 *Bokura ha ikasareteiru*, Musashino Art University, Kodaira, Japan
- 2011 *ARTIST IN DANCHI*, Riento Tamadaira, Hachioji, Japan
- 2011 *Gen ten II*, Musashino Art University, Kodaira, Japan
- 2011 *Gen ten*, Gareilly Yoh, Kichijoji, Japan

## Artist in Residence

- 2020 Yamaji Textile Factory, Gunma prefecture, Japan
- 2020 Järvinlinna Art Center, Jyväskylä, Finland
- 2019 Cerdeira, Lousã, Portugal
- 2016 Gullkistan, Laugarbatn, Iceland
- 2011 ARTIST IN DANCHI, Riento Tamadaira, Hachioji, Japan

## Workshop Planning & Managiment

- 2020 *3D Chemical Drawing Workshop*, Oxford University, Oxford, UK
- 2015 *Humuto Pom-Pom Otousan*, Senju Geijyutsu Mura, Kitasenju, Japan
- 2015 *Odore ANdromeda*, Senju Geijyutsu Mura, Kitasenju, Japan
- 2013 *Tenohira ni Uchu wo Nosetemiyou*, Sawayaka Chiba Kenmin Plaza, Kashiwa, Japan
- 2012 *Science Art Workshop*, Senjyu Geijyutsu Mura, Kitasenju, Japan

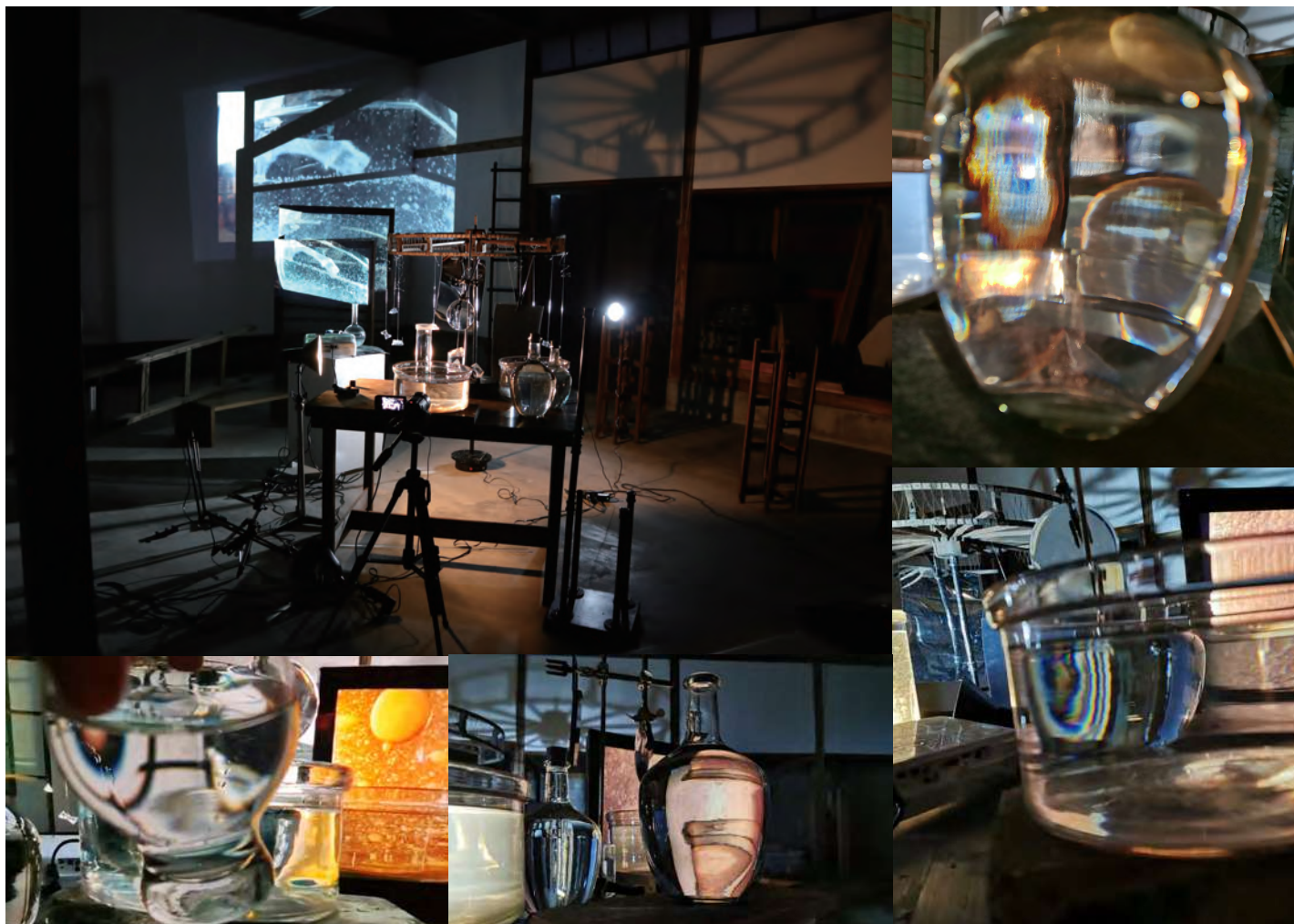


## Statement

私は液体や光の動き、化学変化が起こる際のプロセス、情報の移動など、不可逆な科学的現象を扱い、それらの現象を組み合わせることで、事物の動きやその現れが人間の意思から外れてコントロール不可能になっていく状況や、無生物であるはずのものが生きているかのようなビジュアルイメージを作り出してきました。私の作品は、現象を視覚的に知覚すること、「見ること」から、人間の意識とデジタルの世界との自然な関係性や相互作用の可能性を自然現象の知覚を通して模索し、人間の感覚を通して世界の姿を探ることを目的としています。また、私たちが重なり合う現象を知覚していく中でどのように身体的および心理的経験を得ていくのかを観察し、そのプロセスを通して現代のリアリティを探求します。

Suwa has been active in generating unstable visual images by using irreversible scientific phenomena, such as chemical processes and optical sensations. Her work realizes possibilities for the systematic examination of human consciousness and our natural interaction with mechanical, digital reality. She also focuses on exploring how we gain physical and psychological experience in multiple visual situations.





## 「映り」としての圧縮 Reflection as Compression

2020

カメラ、三脚、モニター、テーブル、木材、  
ガラス、金属パーツ、プリズム、プラスチック、  
以前工場で使用されていた木製パーツ

制作・配信場所：山治織物工場（群馬県桐生市）

企画・制作：諏訪葵

助成：東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト

協力：山治織物工場、yamajorimono\*works、  
「自然知能の理解による社会的価値の創出」

「映り」をテーマにした企画で、液体や光の動きなど自然のダイナミクスを組み合わせながら、予測のつかないイメージを「見る」ために設えたインスタレーション。実際のインスタレーション空間の中で起きる現象をビデオカメラでリアルタイム映像として取り込み、「映す」ことからイメージを作り出し、その様子をYouTubeを通じてオンラインでライブインスタレーションとして配信した。

また、東京工業大学の原正彦教授をゲストに招き、これからのアート × サイエンスについて議論するトークイベントも企画し、オンライン配信を通してこれからの科学と芸術の関わりについてディスカッションを行った。



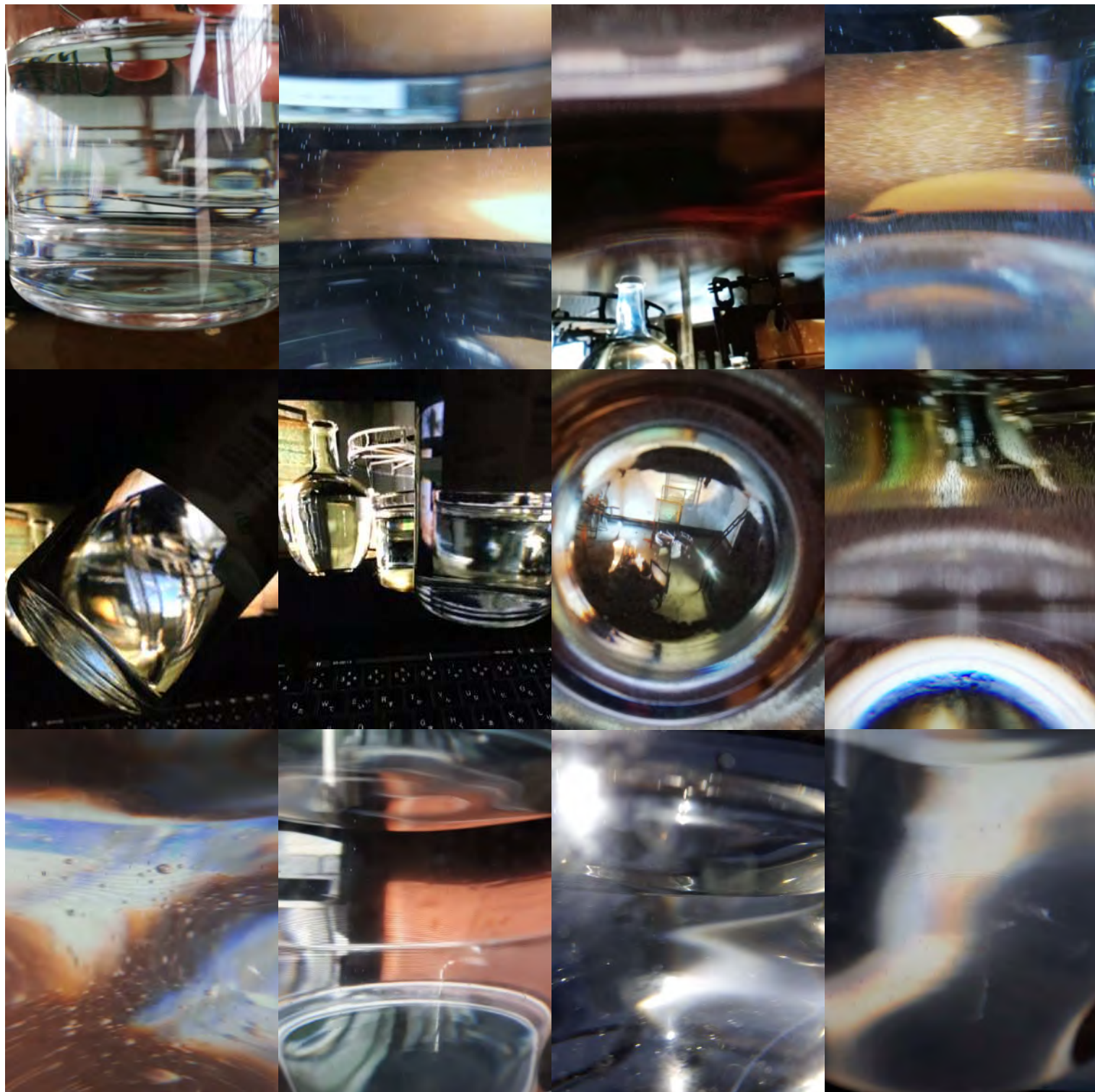




ライブ配信の鑑賞方法として、それぞれパソコンやスマートフォンの前に水の入ったコップなどをかざしてもらい、追体験してもらう方法を推奨した。透明なものを液晶画面にかざすことで、現地で送った光を間接的に受け取り、それぞれの場所に拡散されていく光の移動を自らの身体をもって感じてもらう仕組みを提案した。

そしてその際に撮った写真を送ってもらうことによって、オンライン技術に手紙のような時間性を宿した新しい形の双方向性を探求した。

▼鑑賞者に鑑賞の痕跡として送ってもらった写真





## 「映り」としての圧縮 コンセプトテキスト

### 「映り」としての圧縮

現在の世界状況の中で、最近作品制作を通してデジタル技術の扱いについて改めて向かい合う機会が増えてきた。その中でも、今私が気になっているのは、空間的な作品として考えられることが多いインスタレーション作品を直接現場で知覚するのではなく、中継してどこかへ映像として映し出すとき、その空間が画面の中へぎゅっと圧縮されるような感覚である。今回はその圧縮される感覚を軸に、様々な視覚的現象が関わり合うように空間を設え、その状況をライブ映像として映し出してみたいと思う。複数の視覚的現象が関わり合いながらひとつの画面に集約されることは、現象の関わり合いによって生まれるひとつの描画、あるいはインスタレーションが身近な空間性を失う代わりに時空を越え、それが映し出される新たな「場」になり得るのではないだろうか。

### 不安定性から得られる身体性

昨今のVR技術が示しているように、人間は目で見ただけであっても視覚を超えた体感をもつことができると思う。私はこのことにとっても興味が有り、特に光の動きや液体の移動などの物理現象を扱い、組み合わせることで揺らぎのある不安定な視覚的現象を得るとき、それがデジタル画面越しであっても、その感覚が生まれるのではないかと、もしくはデジタルを介することで存在できる身体性があり得るのではないかと試みのために、今回のオンラインでの公開制作の企画を考えた。インスタレーション空間をデジタルのシステムを介して見るとき、私たちはひとつの視覚的現象として集約されたイメージを体感するのだろうか、それとも、また別の何か空間的なものを見ることになるのだろうか。

### Reflection as Compression

Recently I have been considering how I relate to both technology and nature. What are the emotional and physical differences of being in front of and within an electronic screen? When I relay an installation work as video, I inevitably encounter the complications of the original space compressed tightly into the screen. At this event, I aim to make an installation work as a series of live visual images based on this sensation of compression. When the visual phenomena of this experimental installation are compressed in the act of live streaming, the visual phenomena will traverse space-time, and may be able to exist as transformed drawings of the original phenomena. This is one approach to my belief that conceptual art can be grounded by a sense of reality.

### Generating Bodily Sensation from Instability

I intend to realize visual images in unstable situations as an installation work by using natural phenomena in which chemicals and other physical forms such as liquid move and change conditions. When we see such unstable images, I believe we experience bodily feelings in the automatic use of our eyes. I am curious about this and expect these unstable visual experiences to lead to new sensations, even if we can only see such images through digital gadgets. My project exists in this dynamic contemporary relationship between technology, nature, and human feelings.



「映り」としての圧縮  
物理現象を視覚的に映し出すことから展開する  
インスタレーション空間→ライブ映像への移行

▼オンライン公開スケジュール (YouTubeライブ配信) ※予約不要・参加無料

| 公開制作       | 10月22日 (木)               | 14:00-16:00, 20:00-22:00 |
|------------|--------------------------|--------------------------|
| 10月23日 (金) | 14:00-16:00, 20:00-22:00 |                          |

ゲスト対談  
10月24日 (土) 16:00-18:00, 19:30 開場

諏訪 葵 × 原 正彦 (東京工業大学 物質理工学 教授)

配信会場：東京有明コロシアム (10/23開場・10/24開演)

主催・後援：ARTS+、東京有明コロシアム (ARTS+、東京有明コロシアム)

協賛：ARTS+、東京有明コロシアム (ARTS+、東京有明コロシアム)

自由参加・観覧による観覧料(前払)・チケットあり

お問い合わせ：newa.jp2020@gmail.com

ライブ配信  
YouTubeチャンネル

QRコード



「映り」としての圧縮

現在の世界状況の中で、最近作品制作を通してデジタル技術の扱いについて改めて向かい合う機会が増えてきた。その中でも、今私が気になっているのは、空間的な作品として考えられることが多いインスタレーション作品を直接現場で知覚するのではなく、中継してどこかへ映像として映し出すとき、その空間が画面の中へぎゅっと圧縮されるような感覚である。今回はその圧縮される感覚を軸に、様々な視覚的現象が関わり合うように空間を設え、その状況をライブ映像として映し出してみたいと思う。複数の視覚的現象が関わり合いながらひとつの画面に集約されることは、現象の関わり合いによって生まれるひとつの描画、あるいはインスタレーションが身近な空間性を失う代わりに時空を越え、それが映し出される新たな「場」になり得るのではないだろうか。

不安定性から得られる身体性

昨今のVR技術が示しているように、人間は目で見ただけであっても視覚を超えた体感をもつことができると思う。私はこのことにとっても興味が有り、特に光の動きや液体の移動などの物理現象を扱い、組み合わせることで揺らぎのある不安定な視覚的現象を得るとき、それがデジタル画面越しであっても、その感覚が生まれるのではないかと、もしくはデジタルを介することで存在できる身体性があり得るのではないかと試みのために、今回のオンラインでの公開制作の企画を考えた。インスタレーション空間をデジタルのシステムを介して見るとき、私たちはひとつの視覚的現象として集約されたイメージを体感するのだろうか、それとも、また別の何か空間的なものを見ることになるのだろうか。

アーティスト・諏訪 葵

「映り」としての圧縮、不安定性から得られる身体性、Reflection as Compression、Generating Bodily Sensation from Instability、インスタレーション空間をデジタルのシステムを介して見るとき、私たちはひとつの視覚的現象として集約されたイメージを体感するのだろうか、それとも、また別の何か空間的なものを見ることになるのだろうか。

Web Portfolio: aoi-suwa.info



「映り」としての圧縮

Short-Term Artist-in-Residence Program 4 Online Event  
by Aoi Suwa (2020.10.22-24)

Reflection as Compression  
A conversion from Installation to Live Video  
Aoi Suwa

Schedule (YouTube) \*No reservation required, Free

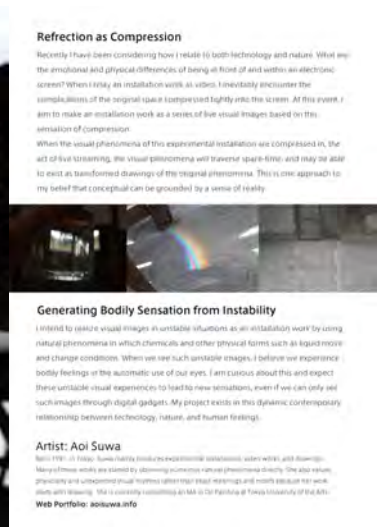
| Thu. 22nd Oct.        | 14:00-16:00, 20:00-22:00 (Japan time)                  |
|-----------------------|--|
| Live                  | *6:00-8:00, 12:00-14:00 (GMT)                          |
| Installation          | Fri. 23rd Oct. 14:00-16:00, 20:00-22:00 (Japan time)   |
|                       | *6:00-8:00, 12:00-14:00 (GMT)                          |
| Guest Talk (Japanese) | Sat. 24th Oct. 16:00-18:00, Open at 19:30 (Japan time) |
|                       | *8:00-10:00, Open at 7:30 (GMT)                        |

Special Guest: Prof. Masahiko Hara  
Tokyo Institute of Technology  
School of Materials and Chemical Engineering

Planned & Designed by Aoi Suwa  
Supported by TOKYO ARCADE, ARTS+ Project  
Assisted by Yamanashi Creative Factory (Yamanashi prefecture), yamanashi-creative.com

\*National Indigenous and European of Social Value Project  
Contact: newa.jp2020@gmail.com

QRコード



Reflection as Compression

Recently I have been considering how I relate to both technology and nature. What are the emotional and physical differences of being in front of and within an electronic screen? When I relay an installation work as video, I inevitably encounter the complications of the original space compressed tightly into the screen. At this event, I aim to make an installation work as a series of live visual images based on this sensation of compression. When the visual phenomena of this experimental installation are compressed in the act of live streaming, the visual phenomena will traverse space-time, and may be able to exist as transformed drawings of the original phenomena. This is one approach to my belief that conceptual art can be grounded by a sense of reality.

Generating Bodily Sensation from Instability

I intend to realize visual images in unstable situations as an installation work by using natural phenomena in which chemicals and other physical forms such as liquid move and change conditions. When we see such unstable images, I believe we experience bodily feelings in the automatic use of our eyes. I am curious about this and expect these unstable visual experiences to lead to new sensations, even if we can only see such images through digital gadgets. My project exists in this dynamic contemporary relationship between technology, nature, and human feelings.

Artist: Aoi Suwa

Residence of Tokyo: Aoi Suwa produces experimental installations, video works, and drawings. Her works are rooted in observing concrete visual phenomena directly, the use of natural phenomena and contemporary digital technology to reveal meanings and world without words with all living. She is currently continuing her M.A. in the Faculty of Tokyo Institute of Technology.

Web Portfolio: aoi-suwa.info





## 水面の質感 Texture of Water Surface

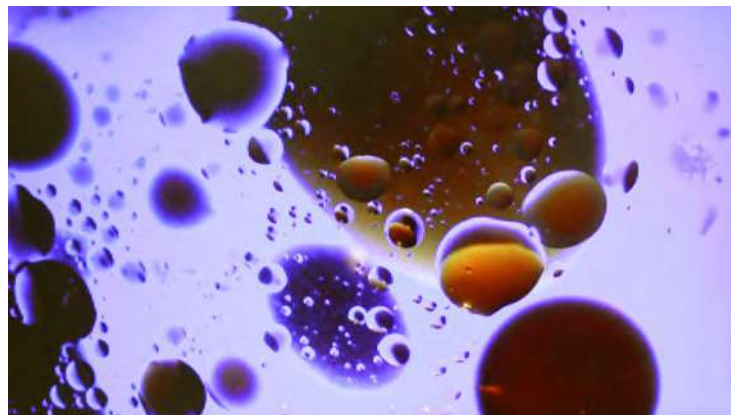
2020

キャンバスに顔料、メディウム

S12

2020年の3月末日、イギリス留学から帰国したが、感染症対策のため14日の自宅隔離があり、その後には日本で初めてコロナウイルス対策としての緊急事態宣言が発令された。気が付けばそこに春はなく、夏も外出が気軽に出来ないなかでおぼろげになっていった。秋の気配すら感じられる頃、夏の日差しに照らされた海のきらめきようなプールの水が終わりなく揺らめき屈折するような、水の質感を感じたくなって突発的に描いた個人的な絵画（あるいはドローイング）。偏光顔料とツヤのあるメディウムを用いて、凹凸を作りながらキャンバス地の白をとところどころ残すことで、見ることで水面を体感できるように描いた。





## 再帰する熱と浮遊 Recursive Heat and Float

2020

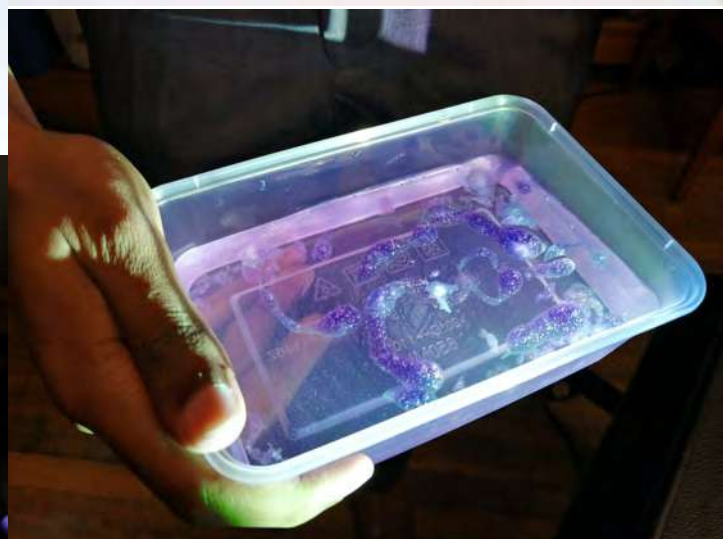
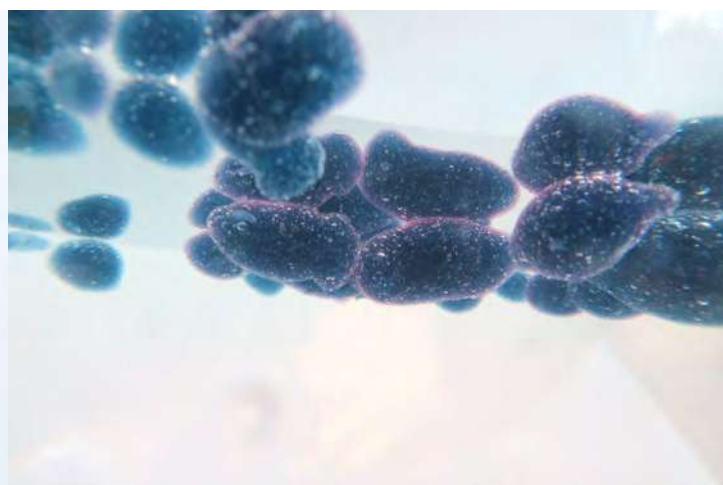
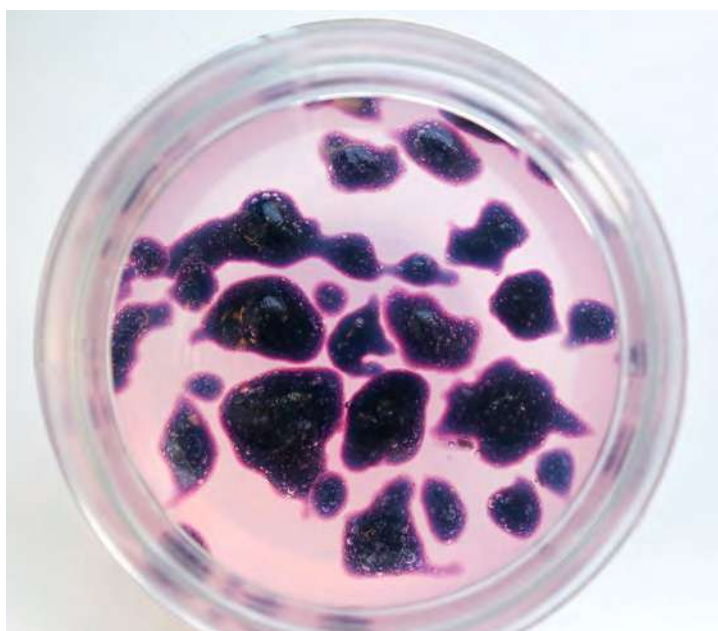
モニター、油滴、エタノール、水、水槽、カメラ、  
金属支柱、テーブル、赤外線ライト、ライト

Non-Present (第五研究室自宅展示)

留学から帰国した後、自分が所属する第五研究室の自宅でのオンライン展示で発表。ライトの熱によって対流を生み出し、液体を動かすアプローチは以前からインスタレーション作品の中で繰り返し行ってきたが、この作品ではその動きを重ね合わせることで、再帰的でありながら予測しきれない視覚イメージを自然現象とテクノロジーの組み合わせから作り出そうと試みた。モニター越しに映る油滴の動きと、水槽の動きが別のモニターの中で重なるように設え、自然の状態では起こり得ない、けれどもテクノロジーと人間が介在することで生まれていく色や動きの自律的な変化システムと、二次的な自然現象のリズムを生成した。







## Chemical 3D Drawing Workshop

2020

乳酸カルシウム、アルギン酸ナトリウム、  
紫キャベツから採取したアントシアニン水溶液、  
レモン汁、プラスチック容器、水

オックスフォード大学のアートクラブ内で  
Art&Science のワークショップとして実施



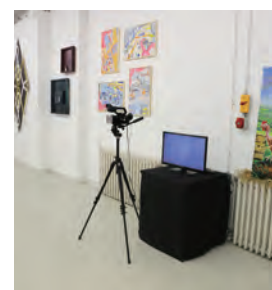


「描く」という行為をキーワードに、今までの化学反応をアートとして捉えるアプローチをワークショップという形に展開した化学＋アートの企画。描いた痕跡が半永久的に残るものでなく、その時その時の刹那に存在するというコンセプトを、今まで作品の中で用いてきた化学反応のプロセスをダイレクトに使用して企画した。

オックスフォード大学内のアートクラブで実地。（参加者 20 人＋クラブのサポートメンバー数人規模）  
また、紫キャベツから取れるアントシアニンを使用するなど、植物から取れるエコな材料を使用し、終わった後も生ごみのように処理できるサステナブルなワークショップでもある。







## ひとつの表面、或る観測 A Surface, Detecting

2020

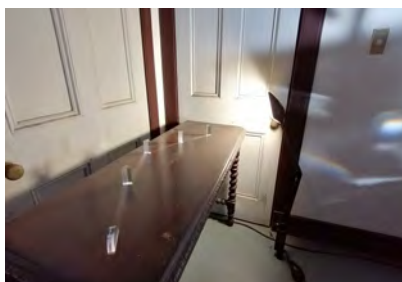
カメラ、三脚、モニター、紙  
サイズ可変

ロンドン芸術大学

Cental Saint Martins MA Interim Show

カメラに薄い紙を貼り、モニターと繋げて設置。  
近くを通りかかる人の影がモニターに映り込み、  
人がカメラに手をかざすとカメラで映し出  
されていたことがわかるインスタレーション。  
詳細な状況を見えなくすることで、カメラに気  
配を見る機能をもたせた。





## 水面を連れる

### Extract the Water Surface

2019

ガラス容器、液体、プリズム、ライト、ディスプレイ、カメラ、扇風機、金属、木材、プラスチック

サイズ可変

「流れる瞬間、うつろう場所/ Place out of Time」

瀬戸内国際芸術祭2019 秋期

東京藝術大学×シカゴ美術館附属美術大学  
グローバルアート共同プロジェクト

ガラスに入った液体をカメラがリアルタイムで映し出し、様々な現象が重なって、実際のガラス瓶の中には存在していない現象がモニター越しに見るガラス瓶の中には映し出される。周囲にはプリズムや扇風機、回転盤を使用した仕掛けが施されており、不可逆な視覚的現象が絡み合うことで複雑な水面の質感を建物の外から中へ招き入れる作品である。また、ここで使用している液体はシカゴで入手した水や油であり、瀬戸内の海にシカゴの湖を浮かべるイメージで制作を行った。





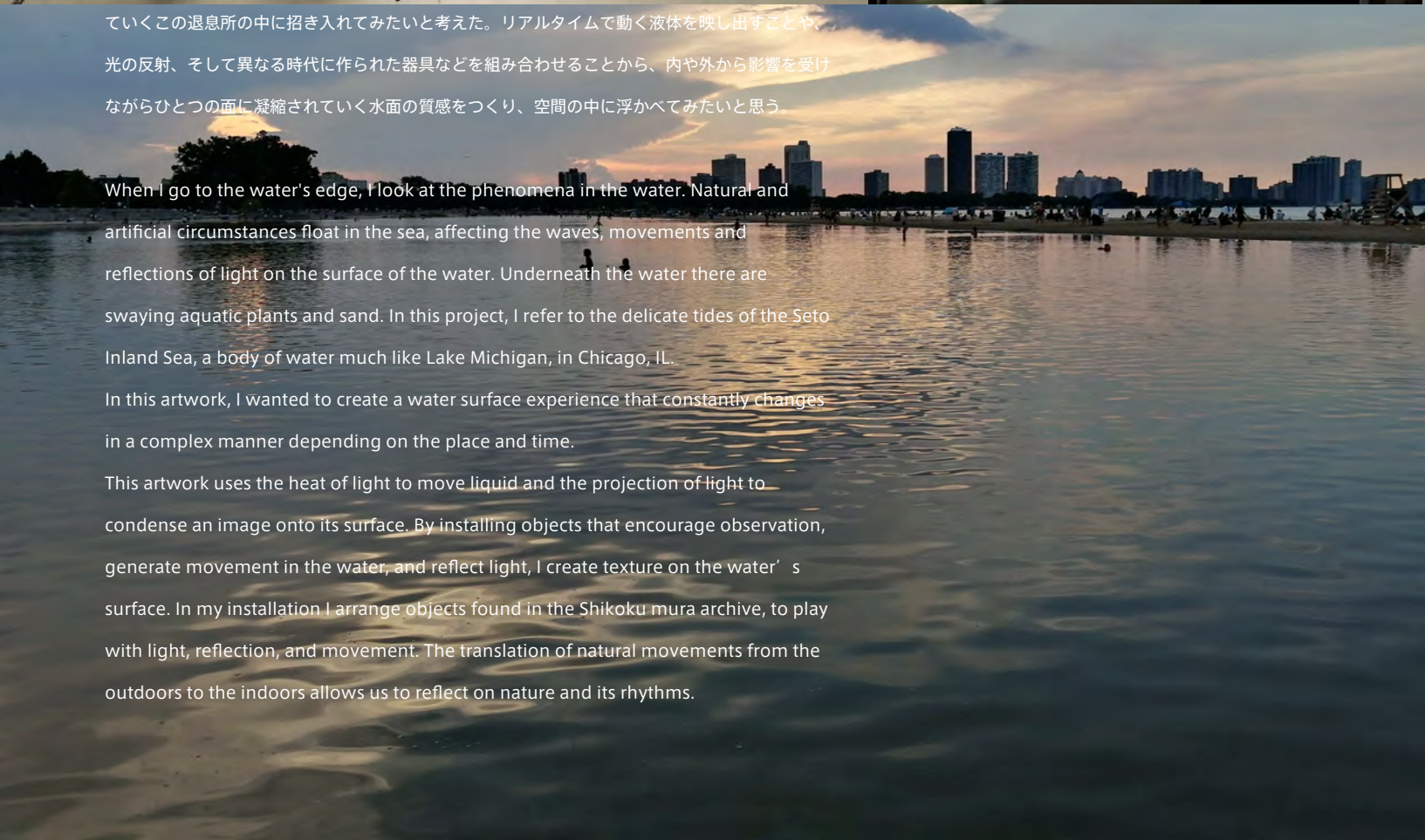
(展示テキストより)

水辺に行くと、波の動きや光の反射、揺られる水草や砂、そこに浮かぶ人工物、そしてそれらを映す水面がいつも気にかかる。このプロジェクトの中でも、シカゴでは海のように広大なミシガン湖に浮かぶ沢山の船や水面の光のうねり、瀬戸内では繊細な潮の流れをつい目で追っていた。そのことから、複雑に変化し続ける水面の質感を、同じように時間の変化によって場所や目的が移り変わっていくこの退息所の中に招き入れてみたいと考えた。リアルタイムで動く液体を映し出すことや、光の反射、そして異なる時代に作られた器具などを組み合わせることから、内や外から影響を受けながらひとつの面に凝縮されていく水面の質感をつくり、空間の中に浮かべてみたいと思う。

When I go to the water's edge, I look at the phenomena in the water. Natural and artificial circumstances float in the sea, affecting the waves, movements and reflections of light on the surface of the water. Underneath the water there are swaying aquatic plants and sand. In this project, I refer to the delicate tides of the Seto Inland Sea, a body of water much like Lake Michigan, in Chicago, IL.

In this artwork, I wanted to create a water surface experience that constantly changes in a complex manner depending on the place and time.

This artwork uses the heat of light to move liquid and the projection of light to condense an image onto its surface. By installing objects that encourage observation, generate movement in the water, and reflect light, I create texture on the water's surface. In my installation I arrange objects found in the Shikoku mura archive, to play with light, reflection, and movement. The translation of natural movements from the outdoors to the indoors allows us to reflect on nature and its rhythms.







2018-2011 作品について

## 「情報とテクノロジーが錯綜する中で 現象と遭遇する瞬間を描くこと」

私は様々な科学的な現象の中に視覚的な美術表現の可能性を見出し、主にそれらの接続方法について研究、作品制作を行ってきました。

具体的には、だんだん化学反応を起こすことでスライムが出来てくる装置や、液体が自然の力でフラスコの中を動き続ける装置などを設えることによって、化学反応や物理的な現象を人間が視覚的・体感的に受け取るための仕掛けや、それらと出会うための関係性を構築する装置、場、空間などを制作してきました。

表現方法はインスタレーション、写真、映像、絵画など多岐にわたります。

最近は特に、水、ガラス、プリズム、粘性流体など、自然現象を見せてくれる素材を扱い、良く晴れた日の日照時間のみ室内で虹と遭遇出来るという空間作品など、一定の条件下でしか出逢えない現象をテーマに制作・研究しています。

何故このようなアプローチを続けているのかというと、何が真実か断言出来ない混沌としたこの時代であっても、人間が身体を通して、様々な現象を知覚する実感を信じたいからです。

それは私の表現の根本が描くことから始まっているからかもしれません。

私にとって描くこと／ドローイングは何かの現象を知覚し、身体をもってある瞬間を捕まえること、それ自体です。

今の時代は、人間が作り出したけれど人間が認知しきれないほどの人工的な情報が世の中に当たり前に存在していて、自然も人間の影響によって作り変えられてきて先が読めない異常気象・災害が世界規模で多くなってきていて、巡り巡って今までは問題なく動いていた社会のシステムにも随所に破綻が現れてきている時代だと思います。

私はこうしたテクノロジー・人間・自然の関係性の中で現代のリアリティを感じます。

この混沌の間を縫うような感覚、アナログとデジタルの間で行ったり来たり揺蕩ったりして現象と出逢っていく感覚が私の作品制作の原動力になっています。

# 2018-2011

## About my work

My focus is on the relationship between visual arts and natural phenomena. I have been studying how to connect humans and technology via the use of visual phenomena. Numerous scientific procedures and insights have been the main preoccupation in my practice. For example, I used the visualization and the phenomenology of chemical reactions for my graduation work. My aim was to create a new laboratory in the exhibition room as a place where we can encounter varying and multiple phenomena. By installing a water tank in combination with various chemicals in the space, I was able to set chemical reactions in motion that would change the substances gradually and significantly and alter the visual experience over time.

I am interested in the exact moment at which the spontaneous expression of a person's emotion occurs. Recently, I heard Artificial Intelligence could draw pictures. However, I do believe that natural phenomena generate really complex figures, which are more original and far beyond the capability of Artificial Intelligence. In addition, I suspect natural phenomena are also able to possess some form of expression. This is because my thoughts and feelings are affected by my belief in Animism that even inanimate objects have souls.

With this perspective in mind, I managed to use equipment in the laboratory for my final presentation for graduation. My aim was to create a new laboratory in the exhibition room as a place where we can encounter various scientific phenomena. I put various chemicals inside a water tank in the space, and arranged a system whereby the chemicals flowed through tubes connected to containers in order to produce chemical reactions. Moreover, I also made a network of tubes as part of the installation work. I did this to create a complex structure that serves to depict the current generation, which is facing increasing complexity due to new technologies and the huge amount of information that accompany them. In addition, I exhibited this work both in the museum and in the university at the same time. Therefore, there are a multitude of phenomena that exist simultaneously. Such an atmosphere shows the reality of today's society, and I try to use this as a source of inspiration. Numerous scientific phenomena have been the main influence in my practice. I would like to create visual forms based on my experience of information and technology through my own senses.





## 邂逅 Encounter

アナログの絵画のイメージを PC に取り込み、  
PC 上で彩度やコントラスト、色相などの値を変更し  
オリジナルと異なるサイズのキャンバスにプリント

F40  
2018

NONIO ART WAVE AWARD 2019 準グランプリ受賞

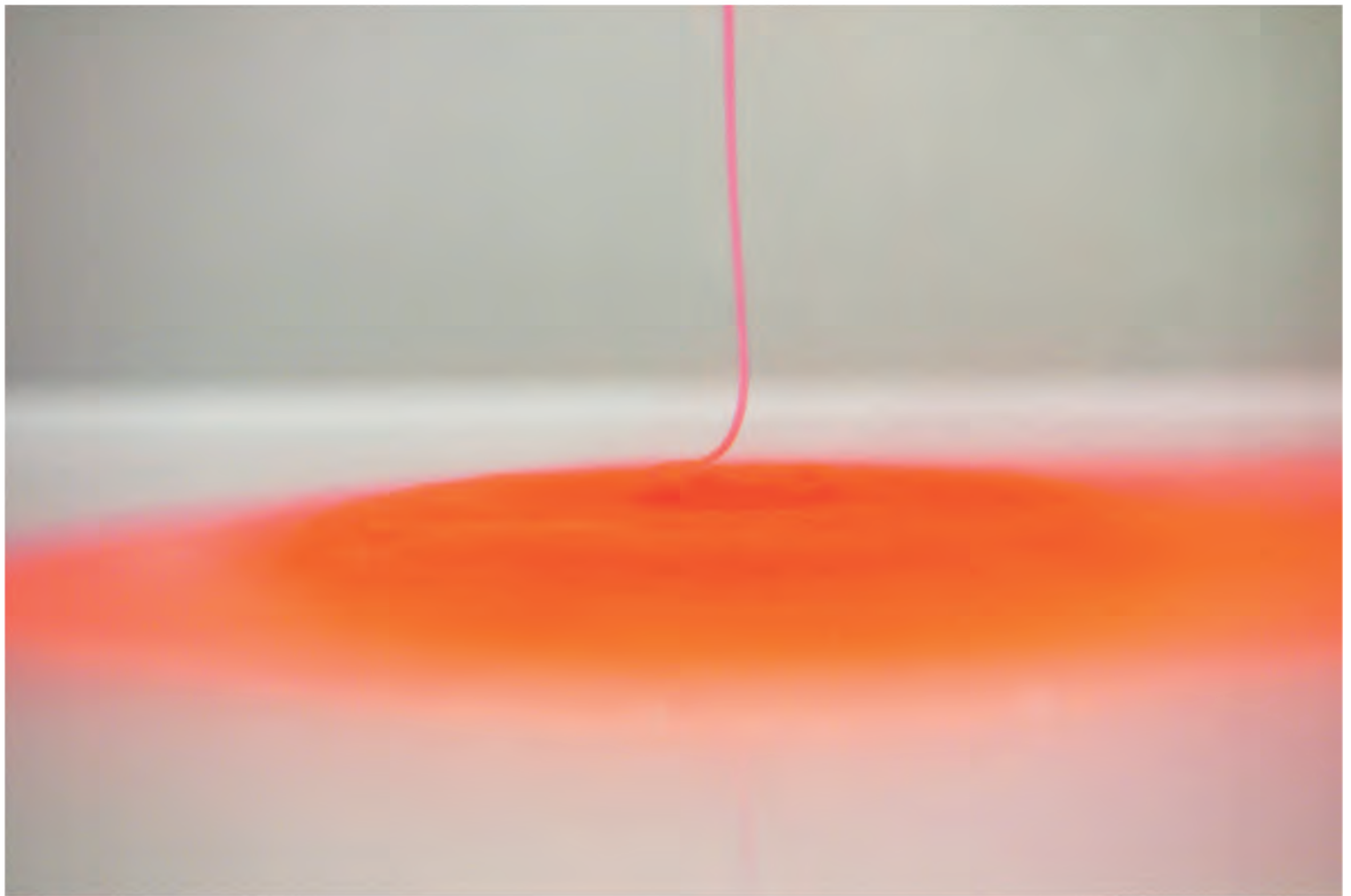
First, I painted an original painting. After that, I scanned the painting and I changed the color balance by using Photoshop. Finally, I printed the image on a new canvas. In this way, the image is not fixed and it can be enhanced through the use of technology. Such advancements in technology has made life easier. Nowadays, we tend to incorporate the latest technology in our designs, products, and ideas to make them more creative. Through this painting I have attempted to express how reality is created as a visual image in the current generation. The interaction between human skill and technology is the theme of this artwork. I aimed to achieve an image that occupies a middle ground between digital and analogue.

アナログとデジタルの狭間で常にせめぎ合っている  
ような感覚が日常の中にある、視覚化を試みた作品



元になった自作の絵画





## 抽出／描画 Extract/Draw

デジタルフォトプリント

A3

2018

NONIO ART WAVE AWARD 2019 準グランプリ受賞

卒業制作「現象と表象」の中で起こった現象の一部を改めて写真として収めた作品。

スライムが段々生成されて堆積していく途中で撮影した。

自分の制作が描くことから始まったせいか、インスタレーションを作っていても根本には描く感覚があり、

自分の外部にある現象を捉えること、それ自体が私の場合は描くことになっているのかもしれない。

物質が元にあった場所から取り出されていくこと、それ自体が描画になるような感覚として体感している。

This is a photograph taken during an installation work presented as my graduation project. The installation continued to show moments of chemical transformation and physical phenomena that occurred throughout the exhibition. I have been treating numerous phenomena as important elements in my installation work. Such phenomena appear only momentarily, so I tried to capture them using photography. The reason why I started doing installation work is because the sequence is similar to drawings. My professor once told me that if an artist wants to draw better, they should draw following their emotions and not thought. That is why I am interested in the exact moment at which the spontaneous expression of a person's emotion occurs. Recently, I heard Artificial Intelligence could draw pictures. However, I do believe that natural phenomena generate really complex figures, which I think is more original and far beyond the capability of Artificial Intelligence. In addition, I suspect natural phenomena are also able to possess some form of expression if this is true. This is because my thoughts and feelings are affected by my belief in Animism that even inanimate objects have souls.





# 軌跡を織る／Optical flow

プリズム、ライト、鏡、水槽、水、ガラス、金属、プラスチック、ビデオカメラ、ディスプレイ

2018

この場所は以前、稚蚕飼育所として、かつて人間が絹を作り出すために蚕を育てていた場所だと聞き、そのことからインスピレーションを受け、絹が光を受けた時に反射するように、何か外的な現象が起こる時にそれらに反応し体感することの出来る場を設えた。

プリズムや鏡などを使い、自然光と人工の光を交差、反射、屈折させ、

そしてそれらによって生まれる虹や影を扱い、現象を織るようなイメージで空間を構築した。

虹や影などの現象は外から入ってくる光の情報によって見える状況が変わっていくように設定した。

かつて蚕から絹を紡ぐために作られた場所に、かつての目的とは異なる空間が紡げたらと思う。

First, I was impressed when I heard the venue where this work was shown was formerly a factory for silk production, and imagined an image of weaving. Therefore, I wanted to create a new space through an installation that weaved light into the space. I planned to connect artificial lights and the continually fluctuating sunlight in the basement. I tried to use a lot of natural light through reflection.

In particular, I made several rainbows in the basement by using prisms and sunlight. Rainbows are not a perpetual phenomenon, and we can only encounter them for a limited time. Such experiences give me a heightened sense of reality, and this was also a theme in this artwork. When I went to Iceland, I saw the Northern Lights, which made a lasting impression on me. I wanted to realize reality in my artwork by remembering personal encounters with natural phenomena.









## 現象と表象

## Phenomenon & Representation

インスタレーション

液体、アクリル、ガラス、金属、  
ディスプレイ、木材、ビニール、  
プラスチック、塗料、ライト、モーター

卒業制作

第 66 回卒業修了作品展

東京藝術大学 上野校地 絵画棟 5F、

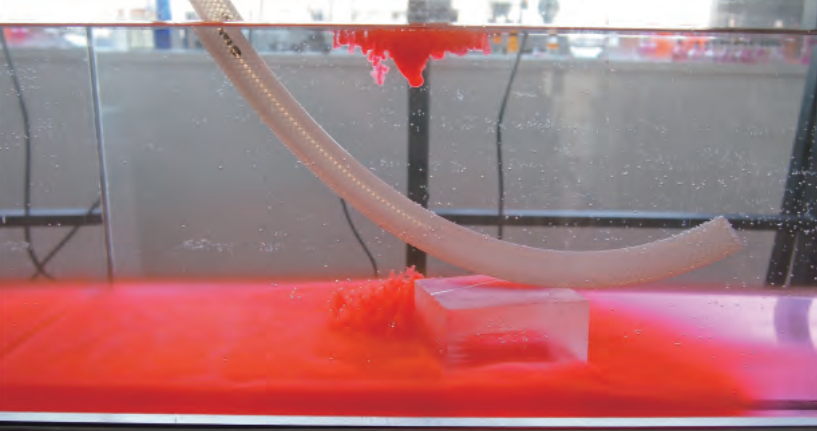
東京都美術館（サテライト展示）

〇氏記念賞

2018











学部の卒業制作として、さまざまな科学的な現象と出逢うための実験室を制作した。水槽の中に赤い液体がだんだん滴下され、化学反応によってスライムが生成される仕組みや、ランプの熱で温められた液体がフラスコ内で対流を起こし、ラバランプのように縦横無尽に運動するシステムを設えた。今作の中で整然とオブジェクトを設置するのではなく、黒い鉄パイプやホースを用いて部屋中のオブジェクトが混然一体となった状態を作り上げた。これは、新しいテクノロジーとそれに伴う膨大な量の情報によってますます複雑化する現代社会の体現でもある。また、この作品は美術館と大学の両方で同時に展示したことで、同時並行的に物事が起こる今日の社会のリアリティも表そうとしたものである。数多くの科学的現象から影響を受けながら変容し続ける、視覚的な場を作りたいと考えている。

I used equipment in the laboratory for my final presentation for graduation. My aim was to create a new laboratory in the exhibition room as a place where we can encounter various scientific phenomena. I put various chemicals inside a water tank in the space, and arranged a system whereby the chemicals flowed through tubes connected to containers in order to produce chemical reactions. Moreover, I also made a network of tubes as part of the installation work. I did this to create a complex structure that serves to depict the current generation, which is facing increasing complexity due to new technologies and the huge amount of information that accompany them. In addition, I exhibited this work both in the museum and in the university at the same time. Therefore, there are a multitude of phenomena that exist simultaneously. Such an atmosphere shows the reality of today's society, and I try to use this as a source of inspiration. Numerous scientific phenomena have been the main influence in my practice. I would like to create visual forms based on my experience of information and technology through my own senses.



## 並走するひとつのリズム Parallel Phenomena as a Visual Rhythm

インスタレーション

磁性流体、水、ガラス、金属、

容器、磁石、ディスプレイ

油画第五研究室後期展示「対話する」

東京藝術大学 大学会館 2F 展示室

2018

左右で異なる現象が回り続け、さらに影響し合う状況を設定した作品。

左側では磁石とそれに反応する磁性流体を回し続け、アナログの振動を伝ってテレビモニターにその様子が映し出される。右側ではビデオカメラが実在する鉄パイプの像と虚像を織り交ぜながらイメージを生成し続ける。インタラクティブということが単に人—物の関係に限らず、物—物の世界にも存在するということを視覚的な作品を通して今後も示していきたい。

I set two parallel objects as an installation on the floor of the space. The objects related to each other simultaneously. On the left side, the black liquid was attracted to the magnet and turned together with the base. At the same time, the movement was recorded by a video camera and the sequence displayed on the monitor on the right side. Both objects affected one another in the middle of the installation. I tried to connect various phenomenon rotation by electricity, movement of liquid, etc. indirectly as a movement. This is the reason why I am often impressed by the relationship between inanimate materials. I guess this feeling is related to animism and I believe also the feeling is even more real in a generation where Artificial Intelligence is becoming increasingly important.



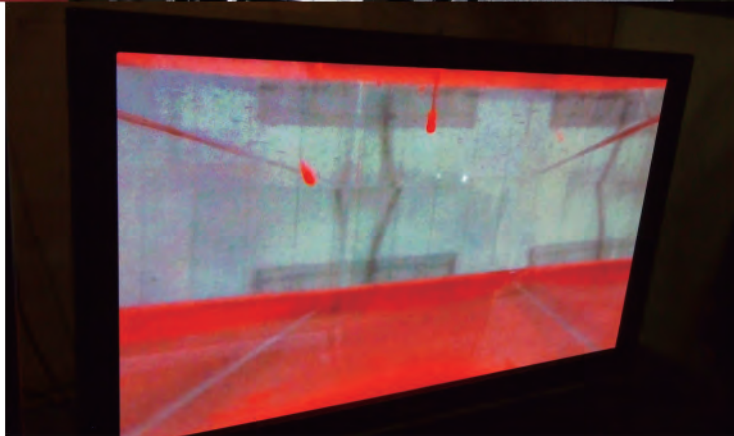




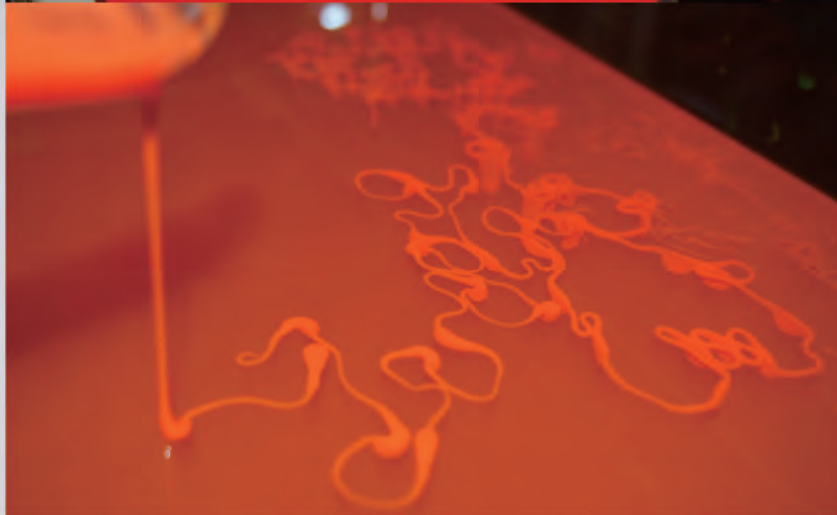
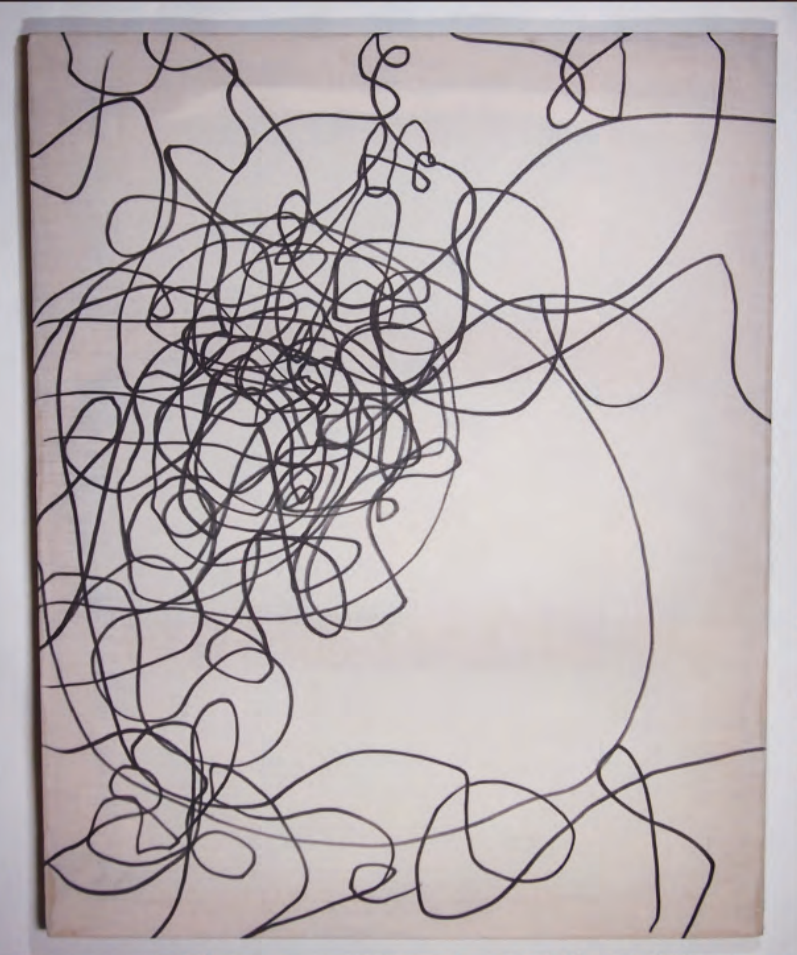
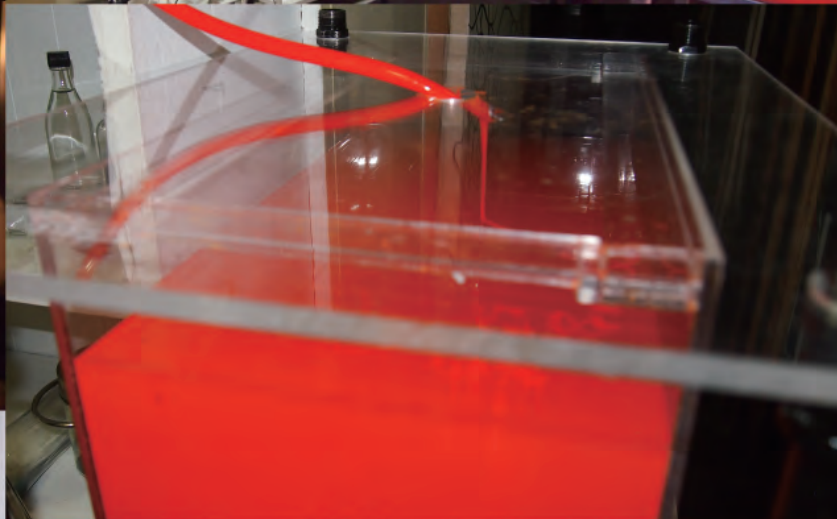


## near Phenomena

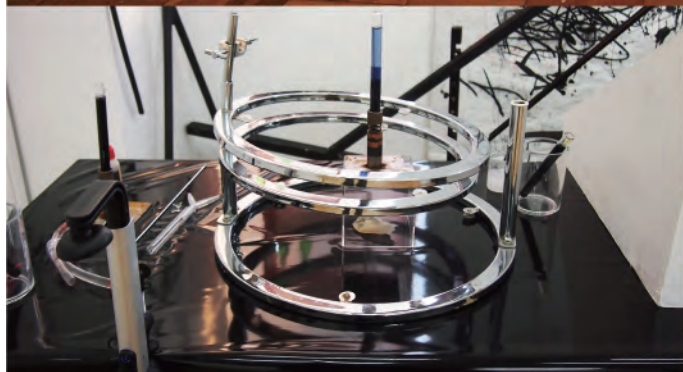
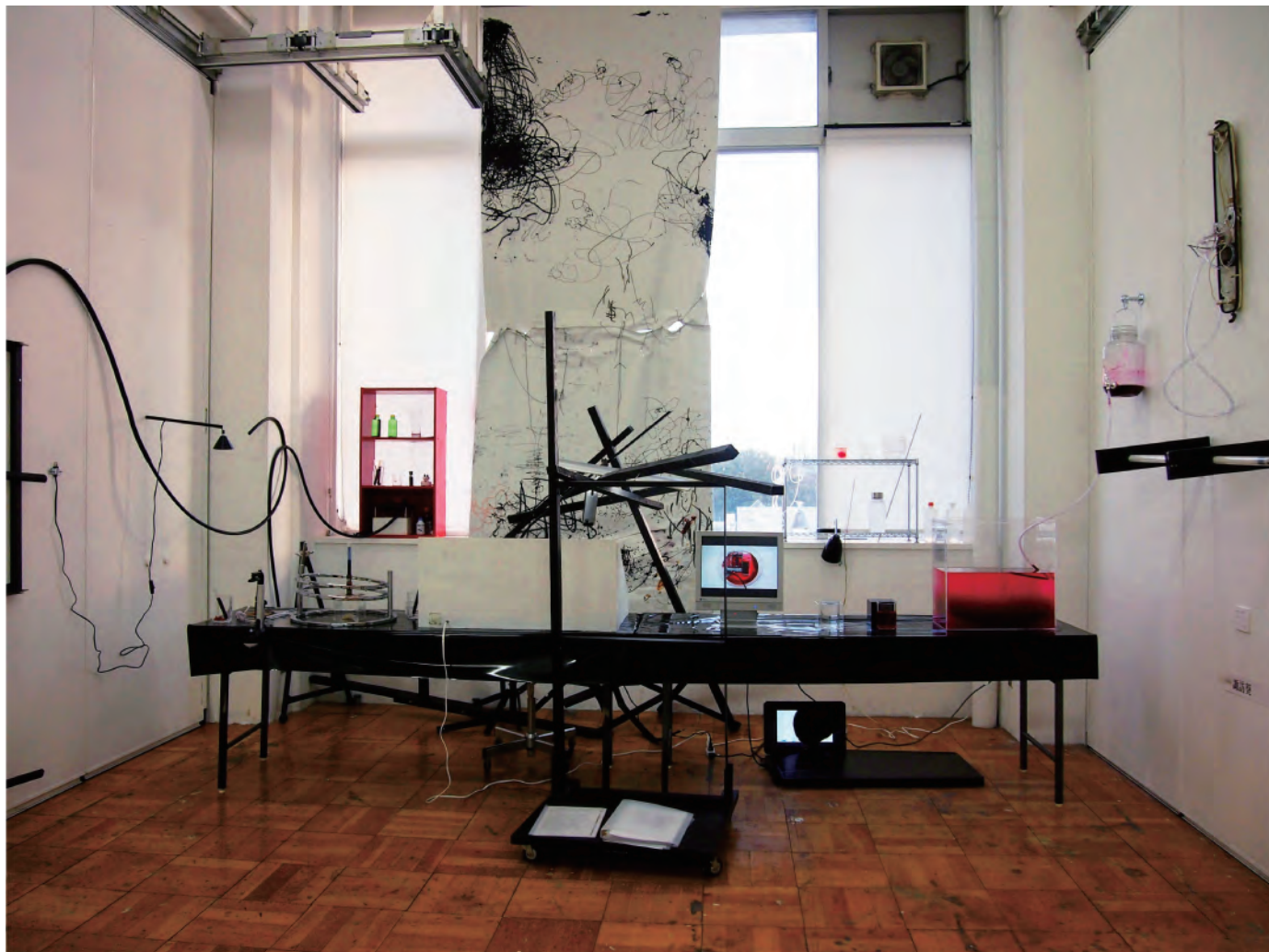
インスタレーション, 絵画  
 水、粘性流体、ガラス、金属、アクリル、  
 ライト、モーター、樹脂、ディスプレイ、  
 キャンバスにペンでドローイング  
 諏訪葵、村上直帆二人展／中央本線画廊  
 2018











## 意識あるいは現象 Consciousness or Phenomenon

ライト、水槽、水、ガラス、金属、木材、ビニール、プラスチック、ディスプレイ、液晶

進級制作展

東京藝術大学 上野校地 絵画棟 5F

2016

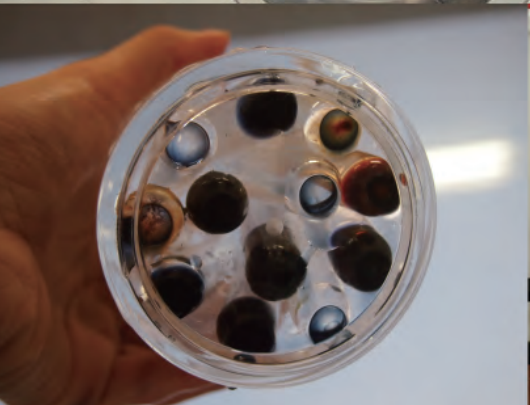
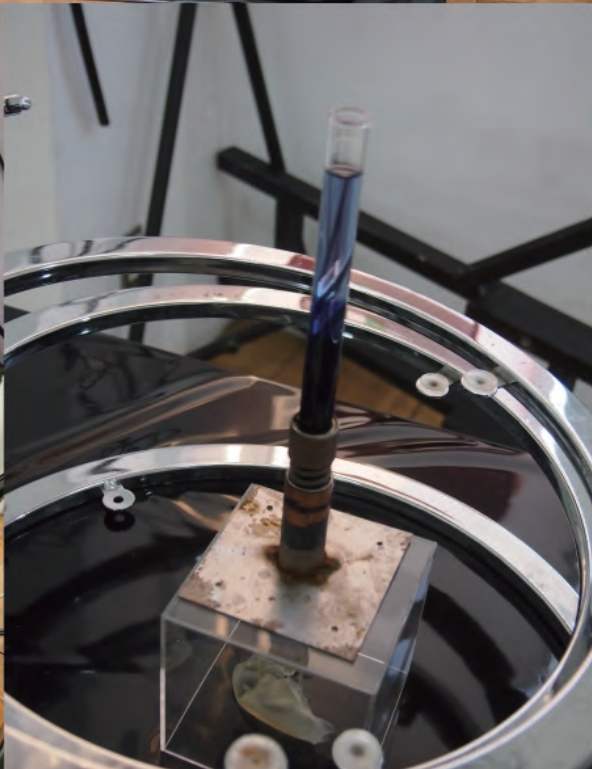
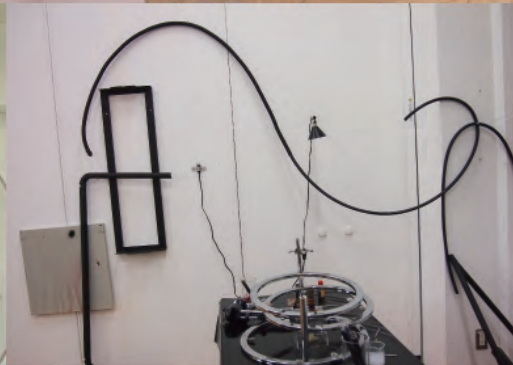
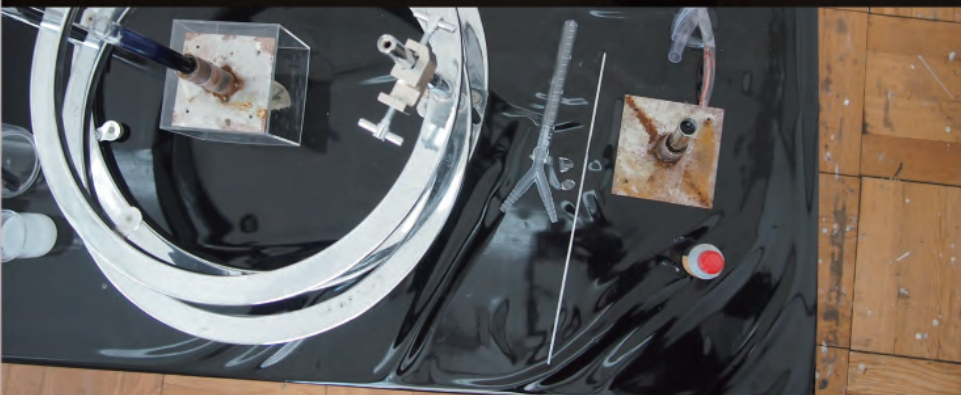
自身のインスタレーションを複雑化させた最初の空間作品。実際の科学実験室を訪ねたことからインスピレーションを受け、同時並行する現象が存在する場を作りたいと考えた。

室内に液体に纏わる化学反応が起こり続ける仕掛けを複数配置し、不定期に液体の色を消す化学実験を行った。

描くこと、現象の機能、オブジェクトが織り交ざるように混在する空間になった。

この複雑化された状況が私が思う現代のリアリティを示している。









## 星のかたちの防犯灯 Security Light of the Star

プラスチック段ボール、電球、コード  
300mm×300mm×300mm  
コニカミノルタソーシャルデザインアワード アート部門入選  
2015

防犯灯が設置されている道は、設置されていない道よりも 見通しがよく、夜でも歩きやすくなる。  
更に無機質な電灯が人の目を引く姿をしていたら その効果はより期待できるものになるのではないか。  
たとえば星のかたちの防犯灯。  
設置する間隔を調整すれば、もしもの時の目印にもなります。  
また、空に星を浮かべて夜道を通る人の心を和らげることが出来たなら、  
それは広い意味で防犯と呼べるかもしれません。  
帰路を歩く時に空を見て、そんなことを思ったのがきっかけでした。  
物を作ること、形を作ることには安心や安全を作れる可能性が沢山詰まっているように思います。

We can walk safely along a road which has security lights, but I feel like I'm being monitored by an inanimate, inorganic object. Therefore, I thought that if we were attracted to a security light which has the characteristic, recognizable features of a star, we would feel more comfortable. I came up with this design walking a road and seeing stars at night. I always get inspiration to express something when I encounter natural phenomena. It can create not only physical security but also mental security if the star shape eases our feeling of anxiety. It can be a landmark, and we can use the light not only on normal days but also in emergency situations. I believe a negotiation of the sensations of danger and security can be creative. I can make not only physical figures but also consider many indivisible functions for my Security Light of the Star. My aim is to create harmony between the expression and the function of our senses.



KONICA MINOLTA  
SOCIAL DESIGN  
AWARD 2015  
supported by **pen**

## 星のかたちの防犯灯

諏訪 葵

防犯灯が設置されている道は、  
設置されていない道よりも見通しがよく、  
夜でも歩きやすくなる。  
  
更に無機質な電灯が人の目を引き寄せ、  
その効果はより期待できるものになるのではないかと。

たとえば星のかたちの防犯灯。  
  
設置する期間を調整すれば、もしも何かあったとその目印にもなります。  
また、空に星を浮かべて夜道を渡る人の気持ちを和らげることができたなら、  
それは広い意味でも防犯と見えるかもしれません。  
暗闇を歩くときに空を見て、そんなことを思ったのがきっかけでした。

物を作ること、形を作ることは安心や安全を作る可能性が  
沢山眠っているように思います。

入選の視点

効果の高い、無機質な機能優先の「防犯灯」は、  
ときに暮れる人を不気いさせることがあるかもしれない。  
「そんな夜は更紗の、のに響かされた」  
  
大半は暮れる人であるはず。  
だったら、これはオゾンとすればいい。  
「綺麗に光った」  
機能効果もありながら、人を傷つけない。  
それが現代には大切である。







## 虹一波の質感

### Rainbow—Texture of the Wave

自作のプリズムによる虹のマッピング  
水、アクリル、スクリーンとなる壁や身体  
サイズ可変  
2015



船に乗って海面を見た時に、海が海というだけでなく波の質感を持っていると思った。  
プリズムを用いてその質感のようなものを再現してみようと試みているときに、  
波のような質感を伴った虹を作ることができた。  
私はこれをプリミティブなプロジェクションマッピングのように思った。  
技術が加速しデジタルの世界観を知っていくことで、  
単なるアナログで終わっていた世界に新たな見方が生まれていくように思う。  
この活動では建物の外や中、様々な場所に動く虹であり波でもある現象を出現させた。

This was an experimental work in which I attempted to create a space using natural phenomena. I have always been impressed by various natural phenomena. In particular, I am interested in the invisible, like waves. Many waves exist around us, but we cannot see all of them. I tried to reveal some of these waves by creating water prisms. I used acrylic boxes as a part of prisms. I projected these invisible waves in many places by using such prisms. Recently I often hear about projection mapping in Japan. However, I guess projection mapping often lacks consideration about natural phenomena. I believe that we should learn from the basic natural construction if we use new technologies.





## Spectra #1

キャンバスに油彩  
S10  
2015





## Spectra #2

キャンバスに油彩

F8

2015

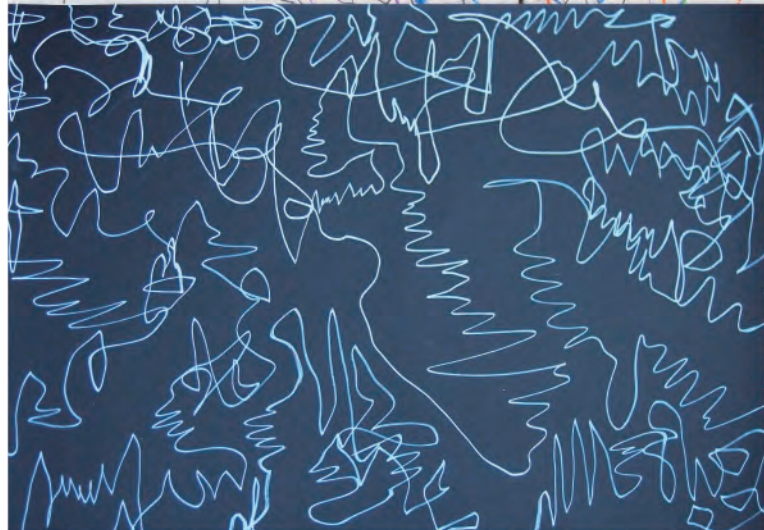
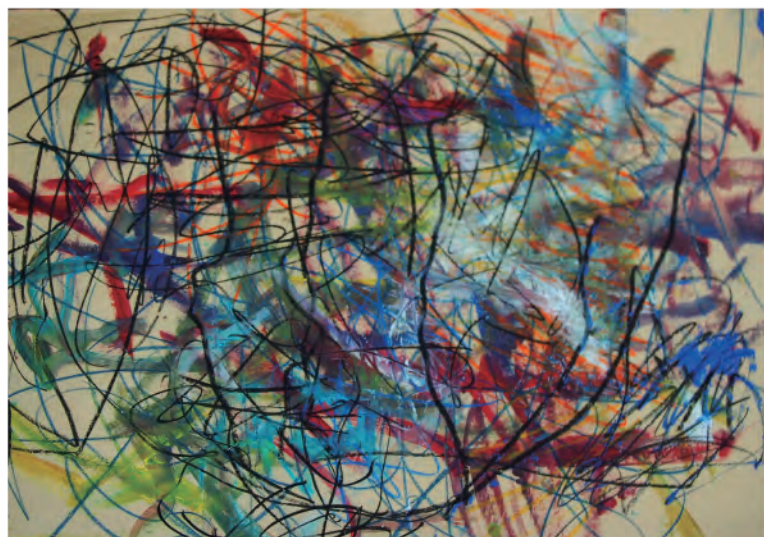




## Mappe (Drawing)

紙にペン、水彩、アクリル、クレヨン、鉛筆  
それぞれF50 相当  
2015







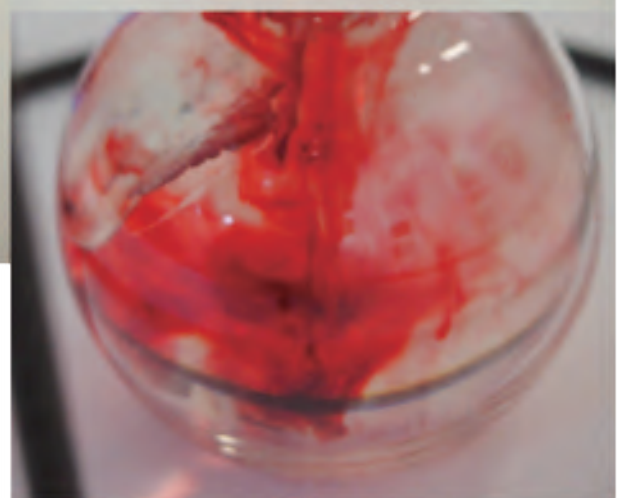


## Parallel Beans

インスタレーション、写真  
豆、食用色素、金属、アクリル  
2013







## 可視の分類

### Category of Visible Things

立体、デジタルプリント、キャンパスに油彩

FRP、ガラス、発泡素材、金属

300mm×300mm×450mm, A4, F15

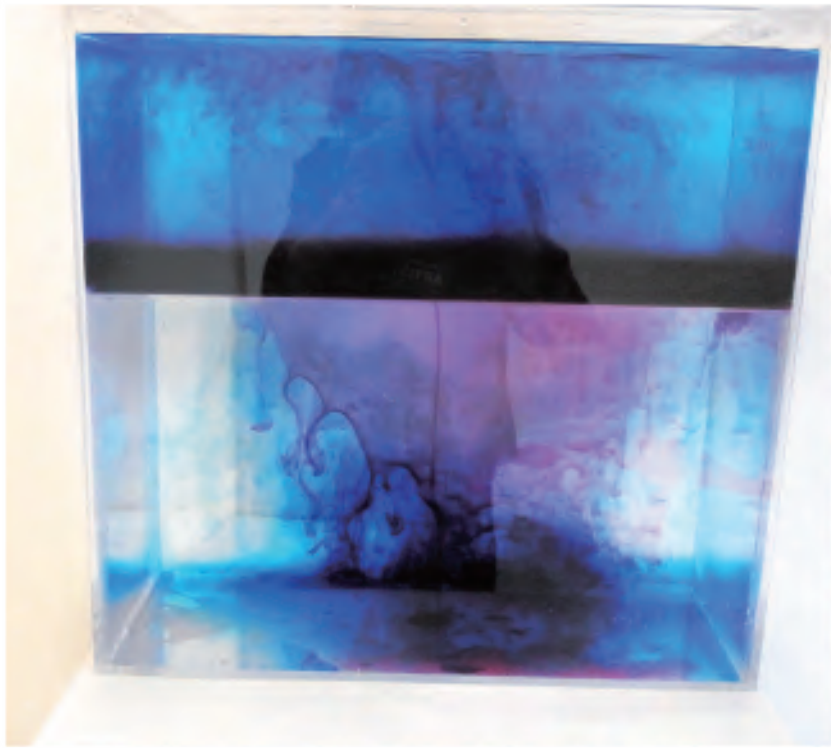
武蔵野美術大学芸術祭

自主企画展示「僕らは生かされている」にて展示

2012







## 識域

Shiki-iki

(Threshold of Consciousness)

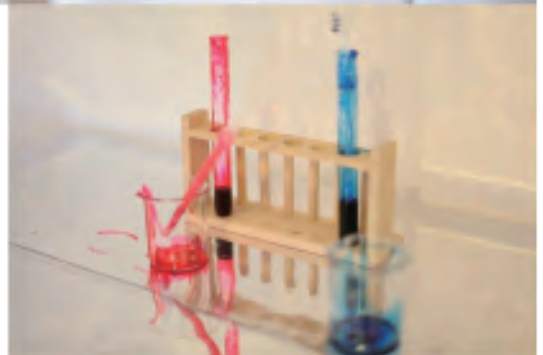
インスタレーション

インク、水、水槽、スライム、ガラス、アクリル、スポイト

シェアハウス「りえんと多摩平」の一部屋

オープニングイベント「ARTIST IN DANCHI」出展作品

2011



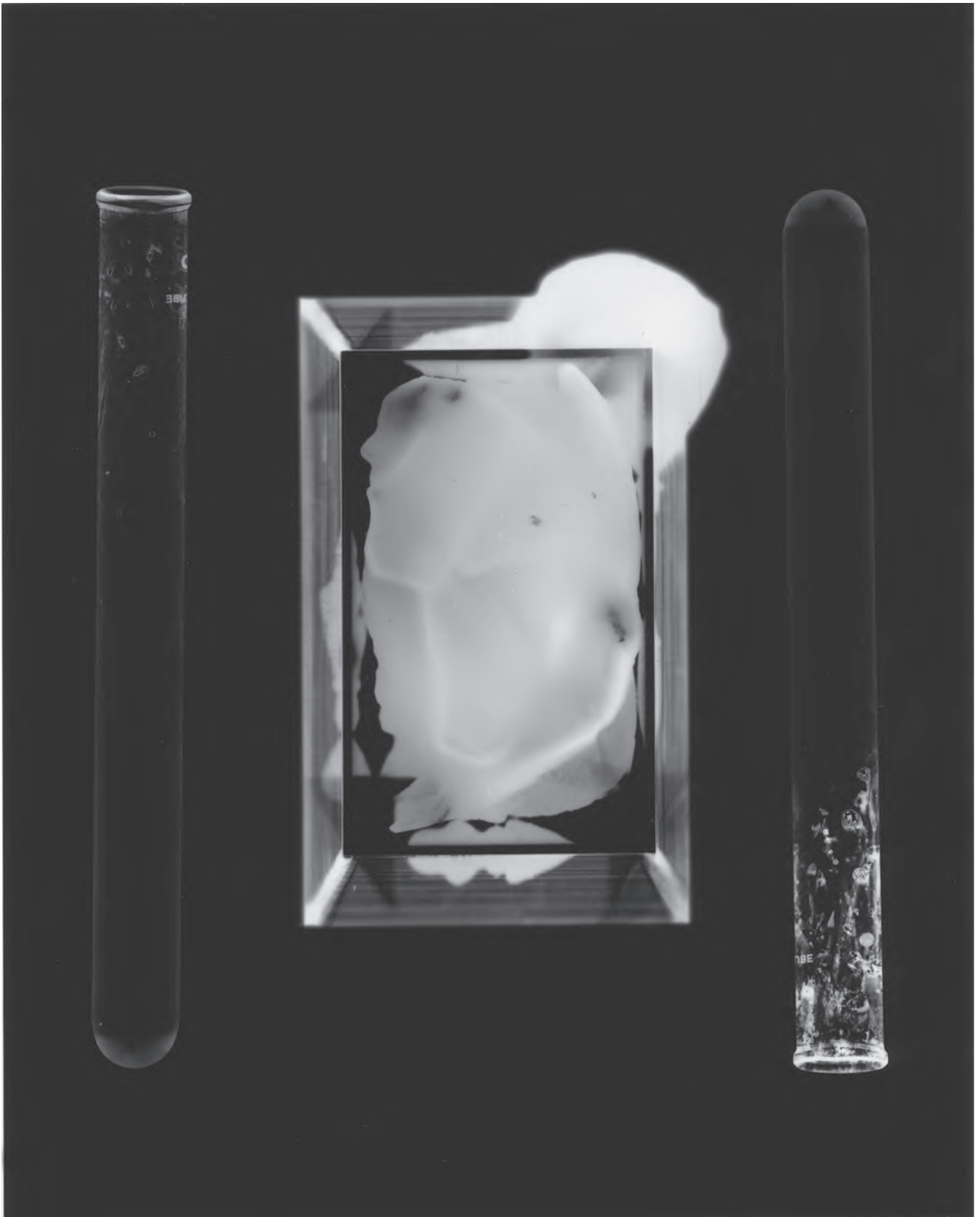




自分がインスタレーション作品を制作するきっかけとなった最初期の作品。室内にアクリル製の水槽を設置し、水を注ぎ、赤と青の2色のインクを備え付け、訪問者にどちらかの色を選んで水タンクに注ぐように指示を設置した。水槽には、インクを注ぐと、水自体の動きが上下で異なるように仕切りが仕込まれている。水とインクが時間の経過とともに変容していく様子から、意識と潜在意識を見ているかのような体感を引き起こすことが目的であった。来場者は意識的にインクを注いだが、液体の動きは意識している範疇に留まらず無限に移ろい変わっていくのである。

This artwork triggered my passion for creating installation projects. I put an acrylic water tank in a room and poured clear water in it. After that, I set two different colors in a room: red and blue. I told visitors to first choose a color they preferred, and asked them to pour it into the water tank. As the ink was poured in the water tank, the water itself showed different movements between the upper and the lower part. My intention was to represent the movement of the water and the ink as similar to the conscious and subconscious mind. The visitors poured ink consciously, but the movement of the liquid appeared unexpectedly as a natural phenomenon, mimicking subconscious thoughts in the mind. I named this work as Shiki-iki, a Japanese word signifying the border between the conscious and subconscious mind.





## Alternative

Photogram

A4

2011